

令和二年度
名寄市立大学
一般入試 前期日程

小 論 文 問 題

試験時間 一〇時〇〇分～一一時三〇分（九〇分）

*受験上の注意

- ① 指示があるまで開いてはいけない。
- ② 指示に従って、静粛に行動すること。
- ③ 机上には、センター試験受験票、本学受験票、筆記用具、消しゴム、鉛筆キヤップ、鉛筆削り、時計、眼鏡、目薬、袋・箱から出したティッシュペーパー以外、不要なものは置かないこと。
- ④ 質問、用便その他、特に必要のある場合は黙って手を挙げ、指示を求めること。
- ⑤ 不正を行ったものは試験を中止し、以後の受験資格を失うものとする。

次の文章を読み、あとの間に答えなさい。

人間以外の動物にとって、生きることは食べることである。しかし、それを実現するには、いつ、どこで、何を、だれと、どうやって食べるか、という五つの課題を乗り越えねばならない。現代の科学技術と流通革命は、その多くを個人の自由になるように解決してきた。24時間営業のコンビニエンスストアや自動販売機。車や飛行機などの輸送手段や、インターネットを利用した通信手段。電子レンジやファストフードなどの調理や保存の技術。これらは私たちが、いつでも、どこでも、どんなものでも、好きなように食べることを可能にした。

しかし、技術によつては変えられない課題もある。それは、だれと食べるかということだ。

ふだん単独生活をしているクマやカモシカのような動物には、この課題は必要ない。なわばりをつくつて他者の侵入を防いだり、他者と出会わないようにして餌資源を確保したりすればいいからだ。しかし、群れをつくる動物は常にこの問題に直面する。とりわけ複雑な社会生活を営む人間にとつて、いっしょに食べる相手は重要である。もちろん、移動手段の革新によつて、遠くに住む知人や親族に会うことができるようになった。だが、だれと食卓を囲むかは、昔も今も個人の自由裁量によつては決められない。

古来、人間の食事には、栄養の補給以外にも他者との関係の維持や調整という機能が付与されてきた。いやむしろ、他者という関係をつくるために食事の場や調度、食器、メニュー、調理法、服装からマナーにいたるまで、多様な技術が考案されてきたといつても過言ではない。どの文化でも社交の場として食事を機能させるために、莫大な時間と金を消費してきたのである。それは効率化とはむしろ逆行する特徴をもっている。

サル of 食事は人間とは正反対である。群れで暮らすサルたちは、食べるときは分散して、なるべく仲間と顔を合わせないようにする。数や場所が限られている自然の食物を食べようとすると、どうしても仲間とはち合わせてけんかになる。だから、仲間がすでに占有している場所は避けて、別の場所で食物を探そうとするのだ。でも、あまり広く分散すると、肉食動物や猛禽類にねらわれて命を落とすおそれが生じる。仲間といれば外敵の発見効率上がるし、自分がねらわれる確率が下がる。そこで、仲間と適当な距離を置いて食事をすることになる。

しかし、食物が限られていれば、仲間と出くわしてしまふことはある。そのときは、弱いほうのサルが食物から手を引っこめ、強いサルに場所を譲る。サルたちは互いにどちらが強いか弱いかをよくわきまえていて、その序列にしたがって行動する。それに反するような行動をとると、周りのサルが寄つてたかつてそれをとがめる。優劣の序列を守るように、勝者に味方するのである。

強いサルは食物を独占し、他のサルにそれを分けることはない。サルの社会では、食物を囲んで仲よく食事をする光景は決して見られない。でも、サルの基本的な食物は植物なので、強いサルに独占されたからといって食物に困るわけではない。ちよつと移動すれば、食べられるフルーツや葉

つばが見つかる。要するに、サル社会のルールは、食べるときはけんかしないように分散して個食をしましょう、そのためには弱いサルが広く分散しましょう、ということなのである。

けんかの種となるような食物を分け合い、仲よく向かい合って食べるなんて、サルから見たらとんでもない行為である。なぜこんなことに人間はわざわざ時間をかけるのだろうか。

それは、相手とじっくり向かい合い、気持ちを通じ合わせながら信頼関係を築くためであるとは思ふ。相手と競合しそうな食物をあえて間に置き、けんかをせずに平和な関係であることを前提にして、食べる行為を同調させることが大切なのだ。同じ物をいっしょに食べることによって、ともに生きようとする実感がわいてくる。それが信頼する気持ち、ともに歩もうとする気持ちを生み出すのだと思う。

ところが、前述した近年の技術はこの人間的な食事の時間を短縮させ、個食を増加させて社会関係の構築を妨げているように見える。自分の好きなものを好きな時間と場所で好きなように食べるには、むしろ相手がいないほうがいい。そう考える人が増えているのではないだろうか。

でも、それは私たちがこれまで食事によって育ててきた共感能力や連帯能力を低下させる。個人の利益だけを追求する気持ちが強まり、仲間と同調し、仲間のために何かしてあげたいという心が弱くなる。勝ち負けが気になり、勝ち馬に乗ろうとする傾向が強まって、自分に都合のいい仲間を求めようになる。つまり、現代の私たちはサルの社会に似た閉鎖的な個人主義社会をつくらうとしているように見えるのだ。

(ゴリラからの警告 「人間社会、ここがおかしい」山極寿一著 毎日新聞出版 二〇一八年より)

問 現代の人間の食事と人間社会について、あなたの考えを八百字以上千字以内で述べなさい。